

# Nara Prefectural University Campus Journal

2018.3 vol.6

## ■ 巻頭エッセイ

### これからの宇陀市 ～奈良県立大学との協働～

宇陀市長 竹内幹郎

## ■ 特集

コモンズ活動事例報告

第52回秋華祭

県民講座・特別講義

ユーラシア研究フォーラム2017 —『ゾロアスター教』と奈良の文化—





大学正門横で咲く桜の様子



「奈良県立大学」のロゴマークは、シルクロード経由で伝わったとされる「唐草模様」のイメージで「NARA」の文字をデザインし、奈良の枕詞「青丹よし」の色である青色（緑色）と朱色、冠十二階の最上位の色である紫色で「最高学府」に相応しい県立大学のロゴを表現しました。

制作者：東京藝術大学名誉教授・奈良県立大学客員教授  
絹谷幸二

## Contents

大学の成績評価を考える

学部長 堀野正人	1-2
巻頭エッセイ	
—これからの宇陀市 ～奈良県立大学との協働～—	
宇陀市長 竹内幹郎	3-4
観光創造commons	5
都市文化commons	6
コミュニティデザインcommons	7
地域経済commons	8
第52回秋華祭	9-10
県民講座・特別講義	11
ユーラシア研究フォーラム2017	12
クラブ紹介	13
TOPICS	14

<表紙写真について>

秋華祭での軽音ライブの様子

### 大学の成績評価を考える

何の新聞記事かは失念したが、ある大学教員が講義科目の成績評価について、受講した学生自身に判定をさせるという印象深い話を聞いたことがある。講義を通じて何を理解したのか、自分の課した目標にどこまで到達できたのか、そこから得た知見を応用して考察、分析することができたか等々、いろいろな評価の視点が考えられるだろう。だが、ある学生が、たいして勉強もしていないのに良い成績をもらうことができず、正直な学生がバカを見るのは不公平ではないかという疑問を呈したという。これに対して、その教員は、君自身を下した評価に他の学生の評価が何か関係があるのか、自分が納得していればいいではないか、と答えたという。

むろん、この評価方法が現実に採用されることはほとんど考えられない。学生が講義の内容を理解し、教員が設定した目標に達したか否かを判定することも含めて、大学の教育上の責任ととらえられるからだ。特に、人の命や安全にもかわかる知識、技能などを修得するための医学、理工学等の分野であれば当然のことだし、学生の自己判断で単位を認めさせるわけにはいかない。

しかしながら、なぜそれを学ぶのか、何を自分のものとしたのか、どこまで納得したのか、という根本的な問いへの答えは、外から与えられるものではない。たとえ、高度な知識や技能を身につけても、それが学生本人にとってどのような意味を持つのかは別問題なのだ。

かりに、学生本人が評価基準を持つとすれば、単に講義内容の理解度だけを対象にするわけにはいくまい。当然ながら、学生はわからなかったところを自分で調べたか、さらに、教員や他の学生と議論を交わしたかといった、授業への姿勢や努力も問われることになる。だから、学生が自分で授業の結果について判断すること、安易に甘い評価をつけてお茶を濁すということではなく、学びの対象により真摯に向き合い、課題を見出し探究することを深く考えるということなのである。

現在、大学で育成する能力の明確化や、個々の授業における学修成果の公平で客観的な評価の導入に関する議論が喧しいが、しかし同時に、客観的には測れない学生本人にとっての学びの意味を問うことも忘れてはならないだろう。



学部長 堀野正人

# これからの宇陀市 ~奈良県立大学との協働~

宇陀市長 竹内幹郎

宇陀市は、平成18年に4町村が合併し新たな歴史を刻み始めた、奈良県で最も新しい市ですが、古より受け継がれてきた歴史文化遺産が数多く存在し、日本書紀にはこの地でわが国最初の葉狩りが行われたとの記録が残されています。都市部からのアクセスも比較的良く、住宅都市としての機能、子育てや高齢者が住みやすい環境が整った「高原の文化都市 四季の風薫る宇陀市」は、地域で暮らす人や訪れる人にとり、心が癒される地となっております。

奈良県立大学では、少子高齢化、グローバル化、高度情報化、多様化など、地域を取り巻く環境が大きく変化しているこの時代、人々が地域で豊かに暮らしていくには、地域自らが主体的に自らの責任において地域の未来を創ることが必要との考えの下、平成13年4月に創設された地域創造学部は、まさにこのような時代のニーズにこたえるべくして誕生した学部です。地域の未来を創る上で最も重要なことは、それを担うことができる人材であり、学部創設以来、地域に貢献できる人材を養成するとともに地まぬ大学改革を進められています。

こうした中、奈良県立大学と宇陀市は、地域の産業振興や地域づくりなどについて相互に協力し、地域社会の持続的な発展と人材育成に寄与することを目的に、平成25年4月に包括的な連携に関する協定を締結しました。

当初の2か年は、当市に対する知見を深めるため施策取組みなどをテーマ別にディスカッションを行い、地域間格差を生まないよう配慮しつつ、施設の統廃合を目指す必要性についての研究や地域内経済循環を達成するための雇用の創出等についての研究などに連携して取組みました。

本市では、地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々を中心となって形成し、地域課題の解決に向けた取組みを継続的に実践する地域運営組織「まちづくり協議会」が市内各地区単位に20団体結成されています。各まちづくり協議会では、「安心して暮らせる地域づくり」、「移住定住による地域づくり」、「地域資源の活用による特産品づくり」を3つの柱に据え、自治会や団体の枠を超え、横の連携により広域的な視点で意見を出し合い、地域づくりに積極的に取組んでいただいています。その取組みに、学生の皆さんに参画を

いただくことにより、地域内に欠けている「若者・よそ者」の外部視点に立つて色々な意見や提案をいただいています。

翌26年には文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」に奈良県立大学より「地学連携と学習コモンズシステムによる地域人材の育成と地域再生」をテーマとした事業提案が行われ、採択されました。このCOC事業に関連した新たな教育制度（コモンズ制）では、学生を「観光創造」「都市文化」「コミュニティデザイン」「地域経済



地域力創造セミナー

の4分野の領域に分類し、対話型少人数教育、課題指向型教育、解決指向型教育が行われ、「地域経済」の分野では、宇陀市を対象地域として、「市場産業と伝統の中山間地域」をテーマとした事業に取組んでいただいています。その取組みとして、宇陀市内の小企業200社を対象とした行政支援のあり方など、今後の産業支援策の検討を行う上で、事業者が抱えている課題や、市に求められている支援など、経営環境や状況等の実態調査を行い、より効果的に利用しやすい支援策の実施について検討するための調査にご協力をいただき、その調査結果に基づき新たな事業展開を図っているところです。一例を挙げると、製品の販路拡大を目的とした商談会、展示会への参加・出展や地域の農林産物を活用した新規開発を支援する制度を創設し、学生の皆さんには審査員として一役を担っていただいています。

私は、平成26年4月、市長就任2期目の公約として「五つのネクストビジョン」として「産業（地域）振興」「ウェルネスシティ」「定住・交流促進」「市民協働」「教育・福祉に充実」を掲げ、

その政策推進に邁進してまいりました。折しもその後、国においても「まち・ひと・しごと」と題して地方創生政策が提唱されました。伊藤学長には、宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会の委員長として総合戦略の策定及び実行にあたり主導的な役割を果たしていただいております。平成27年12月に策定しました「宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、本市を取り巻く社会潮流動向や主な課題がある中で、国の総合戦略や宇陀市人口ビジョンを踏まえ、「地域資源を活かして育てるまちづくり」（しごと）、「暮らしやすく交流が盛んなまちづくり」（ひと）、「地域が連携した安心・安全なまちづくり」（まち）の3つを基本目標に設定しております。

具体例として、地域資源を活かして育てるまちづくりは、6次産業化の推進などにより地域産業の振興に寄与する事業や、宿泊施設誘致や市内企業も含めた企業支援策、また、新たにロート製薬(株)・

奈良県と協定しましたことから、「大和高原しごとづくり事業」として、宇陀市で事業を起こそうとする移住起業家の支援策、定住人口の減少を補うためにも交流人口を増加させるような、自然・歴史・文化などの資源を活用した観光産業の振興に取組んでいます。今後も、学生の皆さんには、貴学の優れた教育システムを活用し、積極的に宇陀市のまちづくり・地域づくりに関わりを持つ人が増えてくれることを期待しています。

Profile

たけ うち みき お  
竹内幹郎

【生年月日】 昭和23年12月4日  
【市長就任年月日】 平成22年3月28日

- 【経歴】
- 昭和47年3月 大阪工業大学工学部卒業
  - 昭和47年4月 村本建設(株)
  - 平成7年5月 榛原町議会議員
  - 平成15年5月 榛原町議会議長
  - 平成18年1月 宇陀市議会議員
  - 平成22年3月 宇陀市長就任
  - 平成26年4月 宇陀市長就任



ランチプロジェクト



うだ産フェスタでのアンケート



# 観光創造

## コモンズ

- ― 観光ビジネス・政策
- ― 景観マネジメント
- ― アジア・グローバル観光交流



シンガポール・マーライオン像と高層ビル群



# 都市文化

## コモンズ

- ― 都市社会史
- ― メディア・表象
- ― アート・アミューズメント



4号館裏のスロープがまるで異世界へと通じる道のように(チェ・ジョンファ氏作品)

### コモンズ活動事例報告

#### アジア・グローバル観光交流分野での学び

近年の訪日外国人観光客数の急増にみられるように、休暇を目的とした国際的な人の移動は世界規模で拡大しています。日本のみならず世界の多くの国々は、国際観光を「見えない貿易」として重要な輸出産業の一つと見なしており、国際観光者誘致をめぐる国同士の熾烈な競争が繰り返されています。このようなことからわかる通り、現代の観光を理解するためには、国際的な視野が必要不可欠です。そこで、観光創造コモンズアジア・グローバル観光交流分野では、アジアさらにはグローバルなスケールでの観光の現状や問題点の把握、持続可能な観光の理解、さらに各国・地域の文化や観光資源の理解、さらに異文化理解能力の習得などを目的に、座学とフィールドワークを組み合わせた授業を展開しています。さらに、外国語で書かれた観光研究に関する書籍や学術論文の講読にも力を入れています。

#### フィールドワーク①…国際港湾都市神戸で観光を学ぶ

2年次生前学期は、国際港湾都市神戸を対象として、日本における海外交渉の歴史過程や遺産の観光資源化などについて、ゼミ内で事前学習を行ったうえで、神戸市内の観光名所(北野異人館・旧居留地・南京町・ハーバーランド等)でフィールドワークを行いました。フィールドワークでは全員で各所の見学を行うと共に、グループごとにテーマを決めて深く追求し、まとめたものを最終報告会で発表しました。このように、アジア・グローバル観光交流分野では、国外の観光や訪日観光などのいわゆる「国際観光のみならず、国内の観光についてグローバルな視点を踏まえた考察も行っています。

#### フィールドワーク②…シンガポールで国際観光と国際社会の在り方を学ぶ

観光創造コモンズ2・3年次生の希望者を対象に夏季休暇中の2週間、シンガポールにて国際観光・多文化共生・異文化理解などを学ぶことを目的とした研修を行いました。参加者は、現地の高等教育機関であるニアンポリテクニク(Ngee Ann Polytechnic)で現地の教員による授業を受け、さらに授業内容と関連した場所を訪問しました。授業はすべて英語で行われ、授業内容は異文化コミュニケーション、シンガポールの歴史・政治・社会開発と国土開発政策、文化と人種、観光資源と開発など多岐にわたりました。シンガポールの現状や課題を理解すると同時に、世界経済の中心地のひとつとして頭角を現す多民族国家シンガポールを素材として、国際社会の在り方を学ぶことにも焦点が置かれました。

### コモンズ活動事例報告

#### 西尾研究室では、2017年10月23日から29日にかけて、地域資源を発掘したり、異質なものを同士をつなぐ現代アートの力に着目した展覧会「船／橋わたす」を本学にて開催しました。

学生の日頃の研究成果を発表する展示に加えて、チェ・ジョンファ氏、伊東宣明氏、阿児つばさ氏を招聘作家に迎え、4号館を中心に作品展示を展開しました。学生は、形式にとらわれない自由な発想や方法で自らの研究成果を表現することを学び、招聘作家の展示を企画・運営することで、展覧会作りに必要な具体的なノウハウについて学びました。

韓国を代表する現代アーティストのチェ氏は、芸術や文化は限られた人々のものでなく誰にでも開かれていると一貫して主張しています。今回の展示では、ザルという誰もが見慣れた素材を用いるだけでなく、そのデザインをすべて学生に委ねました。また、ザルをつなぎ合わせる作業は、学内外から募った40名以上のボランティアによって行われました。また、奈良市の協力を得て、近鉄奈良駅前基広場でもチェ氏の作品を展示し、多くの行き交う人々に本学の取り組みを知っていただく機会になりました。

本学での展覧会にも、学生だけでなく、地域の方やアート関係者の方など、期間中に約400名の方が足を運んでくれました。学生からは、「大学にこんな場所があったとは知らなかった」「作品の制作に参加できてアートの見方が変わった」など、自分たちの場所を再発見したり、アートの可能性を知る機会になったようです。外部の方からは、「県立大に訪れるきっかけになつてよかった」「学生さんの解説付きで鑑賞することも含めて新しい現代アートの体験になった」「学生作品のクオリティが予想以上に高く、自分の制作のヒントになった」などの感想をいただくことができました。ミュージアムとして大学を開くことで、市民との直接的な交流を可能にし、本学の新たなイメージを打ち出すことができたのではないのでしょうか。

展覧会名の「船／橋わたす」は、本学が位置する船橋町の名にちなんで、さまざまな価値観をのせた作品という「船」を渡し、異質なものを同士をつなぐための「橋」を渡すというイメージで名付けられました。現代アートを通じて、船橋町という「港」に人々が集まり、そして渡っていくように、本展が当エリアの新しいプラットフォームになることを目指して、来年以降も毎年開催していく予定です。



### 学びのOneシーン



明日香村でのフィールドワーク



シンガポール研修・授業内でのグループワーク



吉野町で森林セラピーを体験



シンガポール研修・Dialogue in the Darkワークショップ



### 学びのOneシーン



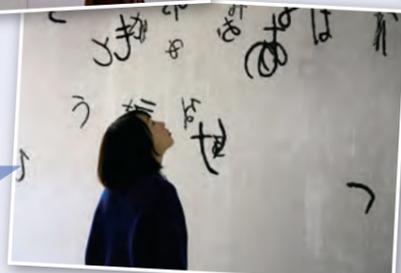
教室を使った演劇ワークショップ(学生作品)



屋外に展開されるインスタレーション(学生作品)



普段は関係者以外訪れることのない部室を使った写真展(学生作品)



4号館の暗い廊下にたどる文字の立体造形(学生作品)



# コミュニティデザイン

## コモنز

- ― コミュニティ政策
- ― 持続可能なコミュニティ
- ― 共生・協働のまちづくり



並河天理市長と記念撮影（福住Sジョブズ・スクールH29開講式）



# 地域経済

## コモنز

- ― 地域経済
- ― 地域産業
- ― 流通・マーケティング



第8回合同研究発表会での報告

### コモنز活動事例報告

#### 天理市福住地区での活動

平成27年度より、私たちは奈良県北東部の大和高原にある天理市福住地区で、地元のNPOと活性化の取り組みをはじめました。福住地区の人口は1,293人(平成29年3月1日時点)です。全国の多くの中山間地と同様に過疎化対策が喫緊の課題となっています。福住で活動するNPO法人日本無形文化継承機構は、無形文化などの地域資源を活用して、里山里海を有する全国の過疎地に共通する課題である「地域の維持再生」に取り組んでいます。具体的には、平成28年度に月1回のペースで地域内外の小中学生を対象とする体験型土曜学習講座「福住Sジョブズスクール」を立ち上げました。教育環境の充実が地域の過疎化対策に必要だと考えられたからです。

私たち高津ゼミの教員と学生、フィールドワーク科目の登録生、そしてNPOの夏休みインターンシップに応募した1回生が、この土曜スクールの活動のお手伝いをしました。具体的には、開催までの会場設営、当日の運営、アンケート調査と集計、終了後の振り返りなどです。年度末には活動の成果をまとめた冊子の執筆と編集にたずさわりました。

天理市は平成29年度から福住小学校に校区外からも通学できるように制度を変えました。これにより、校区外から新たに8名の児童が福住小学校に通いはじめ、全校児童の数が37名から43名に増えました。そのなかに校区外から土曜スクールに参加した児童も含まれています。このことは活動の成果として、地域の方々とともに喜びを分かち合いました。

スクール2年目は、地域の伝統行事への参加と子どもによる行事の復活を新たに盛り込みました。昭和中期まで福住でも卯月八日にツツジやフジなどを竹さおの先につけた天道花(てんどうばな)が家の庭先に立てられていました。これを4月の開講日に行い、伝統行事の復活としてNHKテレビの取材を受けました。

土曜スクールと並行して、引きこもりがちなお年寄りの介護予防としての「協働サロン」にも参加しています。福住中学校の多目的教室を使いお年寄りとお喋りしながら、食用ホオズキの皮むきやドライフラワーの束ねなどの軽作業を2時間ほど行います。合間にお茶の時間が入り、参加者全員で会話を楽しみます。私たちはこの活動のお手伝いだけでなく、会話のなかでお年寄りのニーズを聞き出すことも求められました。また、お年寄りのサロン参加による効果やより良い活動にするための手がかりを探そうと参加者のご家族にヒアリングを行いました。

今年度、土曜スクールの活動は「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。このような地域の活動に、私たちが役に立つことができたのであれば、その機会を与えていただいた地域の方々に深く感謝いたします。

なお、この活動は天理市と奈良県立大学の連携協定の一部であり、天理市より様々なご支援をいただいています。

### コモنز活動事例報告

#### 北海道学生研究会SCAN主催

#### 第8回合同研究発表会で優秀論文受賞

地域経済コモنزでは、所属している各先生の専門に応じて様々なゼミ活動を行っております。下山ゼミでは、コモنزゼミIではイベントを、コモنزゼミIIでは他大学(関西学院大学、大阪経済大学、鳥根県立大学)とインターゼミ(研究報告会)を行い、主にグループワークによる勉強とプレゼンテーションに取り組んでいます。4年次のコモنزゼミIIIでは、ゼミ生全員(4名)による共同研究「奈良公園のシカの経済的評価」を取り組みました。

研究では、野生生物の評価のあり方について丹念に先行研究を精読するだけでなく、実態に即した評価をしていくことを目的に、「一般財団法人奈良の鹿愛護会」へのヒアリングやお土産店への実態調査を行いました。さらにシカ関連グッズとして、奈良市の観光マスコットキャラクター「しかまろくん」のライセンスがどのようなになっているか調査するため、公益社団法人奈良市観光協会に情報提供をもらうために足を運ぶなど、学生らしい取り組みを積極的に行いました。

これらの共同研究の成果を、北海道学生研究会SCANが主催する第8回合同研究発表会において発表しました。この発表会は、2017年11月25日札幌大学にて、7大学のゼミナールによる15報告が行われ、本研究は「地域イノベーション部門」に参加し優秀論文賞を受賞しました。当該合同研究発表会は、北海道の文系理系問わず様々な大学が連携をし、「地域」に焦点をあてた研究成果の蓄積がなされています。後援には北海道や財務局といった公的な機関だけでなく、北海道銀行等の金融機関、地域を代表する民間企業が含まれています。本学からの参加は今年度がはじめてではありませんが、3名の審査員(金融機関、観光関連の企業、大学の研究者)から、報告の問題意識の明確さ、分析手法の妥当性、結果の論理性について高く評価されました。

こうした共同研究活動、また成果報告を通じて、学生は自分たちが論理的に考えること伝えることは何かということに気づくことが出来たと考えます。審査員からの質問では、研究を進めていく過程では、十分には分析出来なかった外部不経済問題について指摘されるなど、今後の研究に有用な指摘もいただきました。自分たちに自信を持つための学びの場の提供、そして成果報告を通じた責任感の醸成、このような取り組みを今後も続けていきたいと考えます。

### 学びのOneシーン

山羊のエサを採取してきたところ



土曜スクールの受付



お年寄りとの軽作業



活動をまとめた冊子の表紙



### 学びのOneシーン

発表会での質疑応答



釧路市長(左から2人目)との記念撮影



一般財団法人奈良の鹿愛護会へのヒアリング



優秀論文の受賞



# 船橋通商店街餅つき大会



地元、船橋通商店街による餅つきも大盛況でした。



広報部署は、テーマに合わせてパンフレットやポスター、会場内の装飾を制作しています。第52回のテーマは「竜宮城」なので、浦島太郎に登場する竜宮城での宴をモチーフにしました。装飾は、海のなない奈良県に海の中の雰囲気とを考え、看板や体育館には沢山の魚を泳がせました。メインステージを飾った1回生制作の写真のような横断幕、可愛い海の生き物が会場を彩りました。これからも皆様に楽しんで頂けるよう、秋華祭を彩っていききたいと思います。

広報部署長 青野 真実

# 第五十二回 秋華祭

平成29年11月5日(日)



奈良県立大学一大イベント第52回となる「秋華祭」が、11月5日(日) 爽やかな秋晴れのなか、県大の、県大生による、県大生・地域ほかたくさんの方々のための秋華祭!! その一部をご紹介します。

第52回秋華祭では、25店舗の模擬店が出店して下さいました。内容もうどんや水餃子、焼き鳥、部誌の販売など様々でした。多くの方々の協力で、当日はたくさんの方が訪れ、楽しんで頂けたと思います。模擬店の代表として秋華祭に携り、成功できたことでやりがいや達成感を感じることができ、大学生活の中でとても貴重な経験となりました! これからも皆様に楽しんで頂けるよう全力で取り組んでいきたいと思っています。

模擬部署長 河端 莉央

人気投票第1位 バレー部ホルモン焼きうどん



ミス・ミスター県大のお2人

イベント部署では、1回生がステージ企画を考え司会を行ったり、2・3回生がミス、ミスターコンテスト、総合司会を担当しました。また今年は秋華祭のテーマであった「竜宮城」とコラボしたスノードームならぬ竜宮ドームも企画し、多くの参加者や有志の方々とともに盛り上げることができました。来年もイベント部署一丸となって楽しいステージや企画を作りたいと思っています! 来年の秋華祭もお楽しみに!



イベント部署長 小山 優衣

by 秋華祭実行委員会

第52回秋華祭、無事大盛況のうちに終了致しました。これもご来場頂いた全ての皆様が最後まで楽しんでくださったからこそ、そして、関係者、地域の皆様のご支援があったからこそだと感じております。心より御礼申し上げます。秋華祭実行委員会は4月から活動を始め、約半年間、本番に向けて精進して参りました。その甲斐あって、今年度は昨年度を上回る皆様にお越し頂き、実行委員一同とても嬉しく思うと同時に、達成感に満ちております。来年度も更に向上した秋華祭を創って参りますので、何卒宜しくお願いします。改めて、第52回秋華祭にご来場して下さった皆様、そして関係者、地域の皆様、誠に有難うございました!

委員長 杉森 慶子

## 前夜祭



ようこそ前夜祭へ



フードも充実



前夜部署長 奥西 佳奈

前夜祭では、今年のテーマにちなんだ豪華景品が貰える企画、本祭に向けたミス・ミスターコンテストの予選、PRタイム・模擬店ポイントをかけた模擬店対抗など、様々な企画で盛り上がりました。秋華祭実行委員一同も来場者と共に楽しい時間を過ごす事が出来ました。今年もたくさんの県大生に会場へいただき、とても嬉しかったです。本当にありがとうございました。来年度も前夜祭から秋華祭を盛り上げて行きたいと思うので是非ご来場下さい!



盛り上がったステージ企画



会場の様子

# 奈良県立大学ユーラシア研究フォーラム 2017 — 『ゾロアスター教』と奈良の文化 —

平成29年10月14日、第一線で活躍する国内外の専門家が一堂に会し、奈良県立大学ユーラシア研究フォーラム2017を開催しました。本フォーラムでは、奈良の歴史文化資源とゾロアスター教との関連について、考古学、言語学、宗教学など多彩な観点からの研究報告と意見交換が行われました。



伊藤学長(開会挨拶)

最初に、ゾロアスター教の基礎的な知識を深めてもらうため、本大学ユーラシア研究センター特任准教授の中島敬介が聞き手となり、静岡文化芸術大学の青木健先生からゾロアスター教の起源や特徴、時代の変遷に伴う変化など、ゾロアスター教の概要についてご説明をいただきました。



祭式実演の様子



バルヴェース・バジャーン氏

続いて、ゾロアスター教神官のバルヴェース・バジャーン氏からゾロアスター教の祭式(拝火儀礼)の実演並びに教義について解説をいただきました。



青木 健氏

次に、基調講演を予定していました元ドイツ考古学研究所長のディートリッヒ・フーフ氏が急ぎ欠席となったため、同氏が講演を予定していた『発掘されたゾロアスター教神殿の考古学資料の解釈に伴う諸問題』について中島特任准教授から発表要旨を朗読いたしました。

続いて、専門分野別講演として、ルール大学ボーフム教授のキヤヌー・シュレザニヤ氏から『中央アジアと東アジアにおけるゾロアスター教の諸神格について:女神デーの事例』について、暨南大学教授の張小貴氏から『中世(3世紀~10世紀)における中国ゾロアスター教の多様性』について、タジキスタン国立古代博物館職員のキャミラ・マジルーノヴァ氏から『タジキスタンのゾロアスター教遺跡』について、静岡文化芸術大学文化・芸術研究センター教授の菅谷文則氏から『シルクロードとゾロアスター教の伝播』について、奈良県立橿原考古学研究所長の菅谷文則氏から『来華したソグド人の新しい研究手法』について、それぞれ専門分野での最新の研究内容をご報告いただきました。(菅谷所長には1階会議室から映像出演いただきました)



キヤヌー・シュレザニヤ氏



張 小貴氏



キャミラ・マジルーノヴァ氏



菅谷 文則氏

その後、10月12日~13日に実施しました大和文華館での六道図視察及び大峯山龍泉寺での内陣護摩祈禱についての感想や、それらとゾロアスター教との関わりについてのご意見について、出演者の方々にご発言いただきました。



ディスカッションの様子

最後に、参加者を代表して、東大寺長老の森本公誠様と元宮内庁正倉院事務所長の米田雄介様から、フォーラム全体のご感想についてお言葉をいただきました。



森本 公誠様



米田 雄介様



熱心に聴き入る参加者の様子

約150名の方々にご参加いただきましたが、時間が予定よりも30分ほど超過したにも関わらず、最後まで熱心に聴講いただきました。ありがとうございました。

## 県民講座

奈良県立大学では、県民の皆さまを対象とした公開講座【県民講座】を実施しております。生涯学習の機会の充実を図ることを目的とした地域貢献事業として開催しており、また、この機会に多くの県民の皆さまに奈良県立大学を知っていただければと考えております。

平成29年度は全3回の県民講座を行いましたので、その一部をご紹介します。

今後も種々の講座を行い、皆さんに満足していただけるよう工夫してまいりますので是非、ご聴講ください。

### 県民講座1



12月5日(火)、大阪銀行協会専務理事であり、本学モンスズ専門科目「金融論」の教鞭をとっていただいている高橋英行先生に「低金利時代の貯蓄の考え方」と題してご講義いただきました。

金融業界の現場で活躍する方による、経済の仕組みや、今の時代における必要とされる金融の知識を大変分かり易くご説明いただきました。

県民の方々からも普段何気なく関わる金融について、その仕組みについて理解できたと大変ご好評をいただきました。

### 県民講座2



1月23日(火)、同志社女子大学嘱託講師であり、本学リベラルアーツ科目「日本の政治」の教鞭をとっていただいている大前信也先生に「戦後日本外交の発信 - 日米、日露、日韓関係の起点」と題して講義いただきました。

日本外交に特に影響深い諸国との関わりについて、受講者の皆さまも熱心に聴講いただきました。

現在にも継続する日本外交について、聴講生の興味は尽きず、講義後の質疑には活発なご意見がよせられました。

## 特別講義

1月22日(月)、大和郡山市との連携協定を記念して、上田清市長による特別講義を実施しました。

2年生を中心とする行政学の授業のなかで、大和郡山市における現状と課題、また未来についてもお話いただきました。

現役市長による特別講義に学生達は熱心に聴講しました。講義後には、学生達からの忌憚ない質疑等にも丁寧にお答えいただき、学生には大変貴重な機会となりました。



10月15日(日)、上海師範大学共催にて国際セミナー「アジアの国際観光交流について」を行いました。本学、上海師範大学のほか、立命館大学からも教授を招聘、県民の方にも聴講いただきました。

10月28日(土)、韓国より現代アーティストのチェ・ジョンファ氏を招き、国際セミナー「現代アートによる空間演出がつなぐもの」を行いました。



【現代アートによる空間演出がつなぐもの】



【アジアの国際観光交流について】

国際セミナー

大学説明会



10月7日(土)、秋の大学説明会を行いました。入学を考慮する57組の保護者や学生に本校いただきました。少しでも受験等への疑問が解消されるよう取り組んでいます。

11月10日(金)、国立国会図書館関西館職員をお招きして、論文作成に役立つ図書館を利用した効率的な情報について、ガイダンスを行いました。



国立国会図書館関西館利用ガイダンス

12月6日(水)、奈良市地球温暖化対策地域協議会(略称・NEW)との連携協定締結式を行いました。学生自身を中心となりNEWと連携した取組を進めています。



NEWとの連携協定締結

12月17日(日)、インドネシアの映画プロデューサーであるメイスク・タウリシア氏を招き、国際セミナー「地域に資する映画」とは—地域創造と映画の関係を考える—を行いました。



【地域に資する映画】とは—地域創造と映画の関係を考える—

12月12日(火)、生協学生委員会による恒例のウィンターパーティーが開催されました。会場である3号館は、一足早いクリスマスに賑わいました。



ウィンターパーティー



社会福祉法人ぶろぼのによる講義

29年度後学期より1年生向けの「キャリアデザイン」を開講、複数の企業や卒業生の話など、まだまだ就職活動は遠いですが自分自身のキャリアを考えるきっかけになればと思います。キャリアデザイナーは今後も実施していきます。

キャリアデザイナー

1月22日(月)、大和郡山市、ならびに同市商工会、観光協会との連携協定を締結しました。産・官・学の連携により、大和郡山市をフィールドとする学生の学びの機会が広がります。



大和郡山市、同市商工会、観光協会との連携協定



シニアカレッジも4年目を終え、受講生による活動も増えてきました。12月16日(土)、ならびにラビュティフルシニア表彰式」では英語コーラスが会場に色を添えました。

シニアカレッジ

Club activities



ガイドの様子①



ガイドの様子②



地域イベントのお手伝い①



地域イベントのお手伝い②



ならなら



私たち「ならなら」は奈良の魅力を発信することを目的に活動しています。毎週金曜日には提携先のゲストハウスのお客様に奈良の街をガイドしたり、ゲストハウスのホストの方とお話ししたりしています。外国の方と交流することで、様々な文化に触れることができます。そして、奈良の街を紹介することで、近くにあるのに知らなかった奈良の魅力を発見することもあります。他にも、奈良のお店やイベントをSNSで紹介したり、地域のお祭りのお手伝いをしたりしています。『ならなら』の活動では、多くの人と関わることで、自分の視野を広げるきっかけを与えてくれます。そんな活動を通して、大学生活を過ごす奈良のことをもっと良く知り、伝えていくことができたらと思っています。

フットサル部



こんにちは！奈良県立大学フットサル部です。練習は毎週火曜日18時〜、木曜日18時半〜、の週2回です。男子18人、女子30人の県大の中では大きい部活です。フットサルなんて難しいそうって思う人が多いと思いますが、でも大丈夫！女の子はほとんどが未経験でした。サッカー大好きな男子が優しく教えてくれて、向上心を持ちながらも仲良く楽しく練習しています。練習の後にみんなでご飯に行ったり、お花見やパーベキューなど交流を深めています。また、いくつかチームを作って試合をする「定例会」や「冬合宿」を行い、技術向上にも努めています。少しでも興味のある人は気軽に遊びに来てくださいね〜！

# ホームカミングデイ

平成29年10月1日(日)、奈良県立大学同窓会主催による「ホームカミングデイ」が、地域交流棟中研修室にて開催されました。始めに、楠本雅章同窓会長による就任の挨拶及び「屯鶴峰地下壕保存運動から平和を考える」と題してのご講演が行われ、つづけて卒業生の坂口愛さんによる「ポートレーサーを経験して」と題してのご講演が行われました。第2部は1号館食堂に場所を移して「懇親会」が行われました。

皆さん久しぶりの学び舎で再会を果たし、旧交を温めあいました。



伊藤学長の挨拶



坂口愛さんのご講演



懇親会の様子



地域交流棟屋上での記念撮影



楠本会長の就任のご挨拶

## 奈良県立大学同窓会 会長 楠本 雅章

10月1日付で、久保前会長の後任として、会長に就任いたしました楠本雅章でございます。奈良県立商科大学商学部にて社会人として入学し、夜間に簿記・商学・経営学などを学び平成8年に卒業いたしました。

私は、平成26年8月に役員満期終了で41年間従事した医療機器輸入販売会社を退職し、現在、大阪府八尾市および大阪商工会議所で医工連携コーディネーターとして中小企業の支援活動を行っております。

本年度、64周年を迎えた奈良県立大学においては、激動の時代をくぐり抜けて、諸先輩方が、奈良県立短期大学・奈良県立商科大学そして現在の奈良県立大学と、その歴史をしっかり背負ってきていただきました。

この同窓会は、皆様方のご協力なくしては運営できないものでございます。短期大学・商科大学・県立大学ご出身の方々、地域の声、またそれぞれの専門分野の声を、同窓会へ反映していただきたいと考えております。私も同窓会総会やホームカミングデイに出席して、会員の皆様のご意見を直接に拝聴し、同窓会運営に反映させていきたいと思っております。

地道な活動により、最近では、同窓会総会やホームカミングデイへの出席者が、少しずつ増加傾向にございます。こういう時にこそ、老壮青のバランスが必要であると考えております。今後は、若い卒業生の方々にも、どのような形で参画をしていただくかを含めた、色々な改革を目指して頑張っていく所存でございます。これからの同窓会運営に、皆様方の益々の力強いご指導、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。